

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	93	学校名	県立守谷高等学校					課程	全日制		学校長名	櫻井 隆之				
教頭名	酒井 貴美										事務（室）長名	菅澤 浩明				
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	58
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		116	106	108	111	111	114			335	331		18		
	科															
科																

2 目指す学校像

- (1) 知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体（健やかな体）のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校
- (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校
- (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒一人一人の特性に応じた授業が展開されているが、ICT機器を取り入れた授業については、研修等を通して実践力を高める必要がある。	生徒の学ぶ意欲を高めるために、ICT機器を適切に取り入れた授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを実践する。
進路指導	進学・就職ともほぼ100%の達成率であったが、目的意識が希薄なまま専門学校へ進学する生徒が見られた。	適切な進路情報の提供や個別の指導を通して、自己の興味・適性を踏まえた主体的進路選択を支援する。
生徒指導	規律ある生活習慣が身に付いてきているが、SNS上のトラブルや交通ルールを守れない場面が見られる。	信頼関係を構築し、自律した生徒の育成を目指す。安全教室等を通じて、事故の未然防止に努める。
特別活動	生徒会活動・部活動に積極的に参加し、よい成果を残している生徒が増加している。キャリア教育の一環として、活動を記録・蓄積している。	部活動参加率は50.4%であった。魅力ある部活動の工夫を通して、部活動参加率の向上を目指す。活動の記録を生かし、学習や生活への意欲につなげる。

別紙様式1（高）

項目	現状分析	課題
開かれた学校づくり	学校からの情報発信を進め、保護者や地域との連携を図っている。守谷市小中高連携を進めている。	HPやPTA会報による積極的な情報発信に努めるとともに、スポーツや芸術、啓発活動において地域や近隣小中学校との連携を進める。
働き方改革	昨年度の平均超過勤務時間数は、6月が38時間、10月が40時間であり、一昨年度に比べて改善がみられた。	ICT機器を活用して、校務の効率化を図る。

4 中期的目標

<p>1 ICT機器を活用するとともに、生徒の実態に応じた授業を行うことで、教師の指導力の向上を図り、生徒一人一人の深い学びの具現化を目指す。</p> <p>2 3年間を見通した進路指導の計画を点検・改善し、組織的、継続的な指導を行うことによって、生徒のより高い進路希望実現を目指す。</p> <p>3 学校生活全般を通し、日常的な面接指導に取り組むことで、生徒と教師の信頼関係を構築し、生徒の基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚、公共の場におけるマナーの向上を目指す。</p> <p>4 生徒主体による活動（HR活動、生徒会活動、部活動）の活性化により、活力と潤いのある学校づくりを目指す。</p> <p>5 本校の魅力を積極的に広報するとともに、保護者や地域との連携を深め、地元で信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>6 教師が担うべき業務を整理するとともに、効率化を図ることによって、仕事と生活の調和のとれた職場づくりを目指す。</p>
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業改善を主とした学力の向上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向け、異校種の授業参観やICT機器を活用した授業の研究・実践を通して授業改善に努め、授業アンケートでは、満足度80%以上を目指す。 ②すべての教員が年1回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。
生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	③キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。 ④面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路実現を支援する。
基本的な生活習慣の確立	⑤きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。 ⑥規則正しい生活の習慣化を図る。遅刻については、10%の削減を目標とする。 ⑦薬物乱用防止やSNS上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。

別紙様式1 (高)

重点項目	重点目標
特別活動・部活動の活性化	⑧HR活動，学校行事や生徒会活動，部活動において，生徒の主体性を大切にした活動を支援する。生徒会アンケートを通して，学校満足度を調査し，満足度60%以上を目指す。 ⑨HR活動において，キャリア・パスポートを活用し，学びの振り返りを行う。
校外への広報と連携の充実	⑩HPやPTA会報などによる情報発信を適切に行い，本校に対する理解の深化を図る。 ⑪保護者との連携をさらに深めるとともに，地域の活動に積極的に参加したり，近隣小中学校との交流を進めたりすることによって，地域社会との連携の充実を図る。
働き方改革	⑫質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために，学校や地域の実情を踏まえ，教師が担うべき業務を整理し，適正化を図る。 ⑬ICT機器を活用して，校務の効率化を図る。